

令和4年度第1回くまもと市男女共同参画会議 議事録

- 1 日 時 令和5年3月16日(木) 10時00分～11時50分
- 2 場 所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4階会議室
- 3 出席委員 7名(五十音順、敬称略)  
香崎 智郁代、豊田 直子、本田 惠典、前田 ひとみ、水野 直樹、  
米満 弘一郎、和田 薫  
(※欠席3名 岩永 秀則、柴田 治穂、平村 英寿)
- 4 傍聴者 1名
- 5 会議次第 (1) 男女共同参画年次報告書(令和3年度事業実績)について  
(2) 男女共同参画に関する市民意識調査について  
(3) 男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査について
- 6 会議録 以下のとおり

(前田会長)

議題1は男女共同参画年次報告書(令和3年度事業実績)について、事務局より年次報告書案の説明をお願いします。

【事務局より議題1について説明】

(前田会長)

男女共同参画年次報告書(令和3年度事業実績)に関して、令和3年度における男女共同参画に向けた様々な取り組みについての説明でしたが、意見や質問等ございませんか。

(和田委員)

セクハラ・パワハラの出前講座のスローガンに加えてほしいことが一つあります。これから先の社会ではお年寄りと若者の教育も大事だと思います。特に教育というと年上が年下に教育すると思いがちですが、今から先は若者が年寄りに教育することがあると思います。角が立たないように、『優しい年寄りになろう』とか『愛される年寄りになろう』といったスローガンを立ててほしいと思います。

(前田会長)

当事者が当事者の視線でキャッチーな言葉を使うとか、一緒に参画しながら作っていただけるとよりいいメッセージができるのかなと聞きながら思いました。

(米満委員)

アンケートの結果が非常に如実で年代別で全然違うという、男女共同の社会と感ずる市民の割合とか役割分担意識を持たない市民の割合というのが年代で全く違うということをどう解釈して今後にかかしていくかというのが非常に大きな問題だと思います。今後アンケート結果を年代別でどう生かすかというのは何かありますか。

(事務局)

アンケート結果が年代別でこれだけ差が出ているので、高齢者の方向けの講座、若い世代の方向けの講座などの開催を検討する必要があると感じている。

(本田委員)

私も長い間教員をやっていたのですが、子どもたちに本格的な道德教育が始まって長くないような感じがします。今の子供たちにとって、道德は教科になりましたし、どういった授業をしたら子供たちの心に響くかというようなことを常に研究していました。今度はお孫さんや子供たちがお年寄りを教育すると言ったら失礼になりますが、そういったことも今後は必要になってくると思います。無理やりではなく、色々な機会があるので、子どもたちからいろんな話をするということ、そのような機会もこれから作っていかねばならないのではないかと思います。教育の場でも長い道のりでした。子どもたちに知識を持ってもらい、その考えを大人になって生かすということが今後必要になってくると思ったところです。

(前田会長)

時間はかかるにしても継続的にやっていかねばならないと思います。

報告書に評価が入っていないところがあり、目標がないから評価ができないのか、ABCの評価がそぐわないと説明がありましたが、今後どのような評価をしていかれるのか、そこを聞かせてください。

(事務局)

男女共同参画課の部分にも評価が入っていないところがあり、事業をするからには目標があるのはおっしゃるとおりで、本来はまず庁内推進会議をやってから参画会議にお諮りするという方法をとらせていただいているのですが、ここ3年はコロナ禍で書面開催という形で顔を見て庁内でも話ができていませんでした。来年度は対面で全課を集めて、事業をするからには目標を立て、評価を行うという方法をとらせていただきたいと思います。

(香崎副会長)

評価はどうしても数値を以って達成できたかという評価になると思うが、数値では見えにくいところもあると感じます。特に教育の部分は、これまでの積み重ねというところもありますし、評価しにくいところですよ。報告書の中に、数だけじゃなく、こういう意見があったとかこういう感想があったなど、そういう部分が見えると非常にいいのかなと思いました。

(前田会長)

今出てきたように評価の仕方、量的なもの、質的なもので、回数とご意見というようなところでの評価にしていかればいいのかと思いますし、状況によって評価の指標ってあたりのところをコメントなどを入れることによって評価のやり方を少し考えていくといいのではないかと思いますので、目標・評価の立て方というところをもう一度検討していただければと思います。

それでは続きまして、議題2の男女共同参画に関する市民意識調査について、事務局よりご説明をお願いします。

#### 【事務局より議題2について説明】

(前田会長)

質問項目で何かありませんか。

(本田委員)

1 ページの間4について、回答選択肢が男性、女性となっています。家の中でどんな立場の人が家事をするのかというのは重要な質問だと思います。男性、女性という分けただけでいいのかというところはいかがですか。

(事務局)

以前は娘、息子、息子の妻等複数の項目で質問していましたが、お1人の方もいらっしゃいますし、回答者がここで悩むと思いき事務局側の案を提示させていただきました。本日ご審議いただいて今後どうするかというのを決めていきたいと思えます。

(本田委員)

分け方を工夫すれば同じ男性でも同じ女性でも何か書けるのではないかと思います。

(米満委員)

男女共同参画のどの項目の成果を挙げるためにどういうアンケートが必要なのか、成果を得るための必要なアンケートになっているのか、知りたいという知識欲求のアンケートもありますし、成果を挙げるためのアンケートもあると思えます。第2次基本計画の達成が難しいところがあったのなら、なぜ達成できないのか原因を探るアンケートができれば一番いいと思えます。アンケート手法を専門家に相談するというは一つの方法ではないかと思えますが、企業コンサルタントなどに依頼できませんか。

(事務局)

ご提案いただいた企業コンサルタントというのは、今後検討したいと思えます。

(米満委員)

第2次基本計画は大きなしっかりした目標があるので、この目標の達成のためにどういう質問が必要なのか、どういう調査が必要なのかだと思います。ゴールに対してアンケートの結果が具体的に何%以上を目標になるような質問にした方が後々使いやすいと思えます。

(豊田委員)

1点目はアンケートの目的ですが、アンケートを取る目的が明確にすることで回答率も高くなると思えました。もう1点ですが、今回削除された「あなたは、子どもの育て方についてどのように考えますか。」について、教育を施す大人がどういう考えをもっているかというのは、大人の考えが子供の考えにも反映していくので必要な設問ではないかと思えました。

(香崎副会長)

自分がアンケートを答える立場だと考えると、なぜ一つしか選択できないのか疑問に思いました。例えば「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなたはこの考え方をどう思えますか。」というところですが、例えば4番目と5番目ですごく迷い、「4. 家事や育児には、男性も積極的にかかわった方がいいから」という思いもあるが「5. 女性も家庭だけでなく積極的に社会にでた方がいいから」も同じくらいのレベルで考えている部分もあるので、ご検討いただきたいと思えました。また、「次の言葉について、あなたの認知度をお答えください。」で設問について、たくさん回答するのは大変ですが、例えば、「性的少数者 (LGBT)」方への認知度は非常に重要であり、設問をこの4つにした理由を明確にしておいた方がいいと思えました。

(事務局)

設問を4つに減らしている理由としましては、「性的少数者(LGBT)」が消えているのは今すぐお答えできませんが、現在男女共同参画課で実施している事業を選択し、この設問にいたしました。

(香崎副会長)

今後の回答によっては具体的施策の中からなくなることも考えられるという理解でよろしいですか。

(事務局)

認知度だけではなく内容も知っているという項目もありますが、今回はどこまでの内容を知っているかというところまで聞く予定としておりません。具体的施策から削除するには、どの程度内容を知っているかという項目の追加も検討が必要だと感じています。

(前田会長)

問4の「あなたの家庭では」と聞いたときに一人暮らしだと参画とは関係ない結果になってくる可能性があるのですが、この答えで何が見えるのか、どういう目的のために問として設定しているか、答えに重なりがないかを精査をいただきたいと思います。

それでは続きまして、議題3の男女共同参画社会実現に向けた企業意識・実態調査について、事務局よりご説明をお願いします。

#### 【事務局より議題3について説明】

(前田会長)

質問項目についてご意見等がありましたらお願いします。

(米満委員)

男性と女性で評価方法が一緒なのに女性にキャリアアップを目指しなさいと言っても難しいところがあり、男性と女性で評価方法を変えているかというのは非常に大事です。マネジメントコースとプロフェッショナルコースのような、マネジメントで人を管理する方に行くか、スキルアップして役職じゃないけどそれも出世として考えるというような評価方法があるか企業に聞いた方がいいのではないのでしょうか。女性の管理職の割合を増やすとなると女性が頑張らないといけないシステムになっているので、女性であれば管理職を2年で終わるとか交代でやるというような仕組みを作っているかどうかというのは非常に大事なアンケート項目じゃないかと思います。

(前田会長)

評価を女性男性ではなく、女性でも育児介護が必要ない方もいらっしゃるのでは、育児介護をされる方々の別評価にするべきではないかということもあります。色々な制度があるが、残された人たちへの何らかの支援体制などができているかも非常に大事だと思うので、もしそういう項目が作れるなら考えていただきたいと思います。

(豊田委員)

問7について、会社が大きくなると従業員の方の配偶者が妊娠していることを把握してないところもあると思うので、「いる」、「いない」だけではなく「把握していない」、「わからない」って項目も必要だと感じました。問8について、導入だけでなく活用されているかの把握はしなくていいのでしょうか。

(香崎副会長)

問 10、11、11-1 っていうのは「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていましたか。」「取組が進んでいると思いますか。」とか「どんなメリットをもたらしていますか。」というのはその人の考えを聞かれる質問なので、答える人で全然答えが違ってることが予想されます。企業としてそういう意識をトップとして持っているかということを知りたいなら、ターゲットを絞って聞かないといけないと思いますし、取り組み状況を聞きたいのか誰の認知を計りたいのかがわからないので、設問に回答する対象者を書いた方がいいと思いました。

(本田委員)

休暇について、公務員は手厚く配慮されていますが、教員だと3年休職しても復職できます。休職して復職できるのかどうかというところあたりの質問はお考えでしょうか。そういう質問が二人目の子供を産みたいけど休めないのであきらめるという事態になると、今後の少子化に関するような質問を男女共同の参画社会実現のためには必要というように思います。

(事務局)

育児休業の取得率期間の前に復職する制度があるかという設問は検討してまいります。

(前田会長)

ほかにご意見がなければこれにて議事を終了します。非常に貴重なご意見がたくさん出てきましたので、本審議会でいただきました意見を基にしながら一つずつ進めていければいいと思います。